

3 出羽庄内公益の森整備事業からの報告 伊與田朱美（庄内総合支庁森林整備課）

この写真は、明日、酒田市の飯森山地区で行なわれます、「砂防林を育てよう」という松林の整備ボランティアの昨年の集合写真です。赤いベストを着た人々がボランティアリーダーで、活動の指導する人々です。この人々の元に多くの小中学生を始めとする地域住民の方が参加しました。

庄内砂丘の海岸林保全の意義は、300年に渡る厳しい自然との共生の中で、培って来た森づくりの文化を伝承し、良好な環境を次世代に伝えるという事、そして海岸林が持つ防風、砂防、水源涵養、防潮、保健休養といった様々な機能を維持し、地域の産業を守り、県民の安心、安全な暮らしを支えるという事です。そのために庄内総合支庁森林整備課では、平成14年度から出羽庄内公益の森整備事業という事業で海岸林の保全活動を支援して来ました。



出羽庄内公益の森整備事業というのは、庄内砂丘の海岸林、これを「出羽庄内公益の森」と位置付け、4つの事業を行なっています。

まず、「出羽庄内公益の森づくりを考える会」について、ご説明します。鶴岡市、酒田市、遊佐町にまたがる庄内砂丘ですが、これを関係者が協力しあって、一体的に保全していくために、様々な団体に呼びかけて、情報交換や今後の庄内砂丘の海岸林のあり方について、幅広く話し合いを行なう場で、年3回行なっております。

参加団体は、国、県、市町といった行政機関、大学、小学校などの教育機関、住民団体、森林組合など、合計27団体が現在参加しております。

1年目は行政主導で開催し、庄内支庁総合支庁の部長が座長を務めましたが、翌年からは、参加者主体で行なうということで、会長に山形大学の中島先生、そして庄内海岸のクロマツ林をたたえる会理事長の砂山さんが副会長、事務局は、この5人のメンバーで行なっております。様々な団体の関係者が一同に、しかも平等に話し合う場として、出羽庄内公益の森づくりを考える会は、とても重要な役割を担っています。

次に「ボランティア活動の支援」についてご説明します。飯森山地区の「砂防林を育てよう」のようなボランティア活動を、様々な面から支援するものです。例えば、ボランティア活動の企画を手伝いや、現地での活動指導を行います。「考える会」のメンバーにも呼びかけを行なって、ボランティアリーダーとして参加してもらい、活動の支援を行います。また、庄内総合支庁で保管しているヘルメット、のこぎり、鎌などの資材をお貸ししています。そして、枝打ちなどを行なった後に残材が大量に残りますが、その枝をそのまま放置しておきますと、松くい虫の温床になってしまいます。そこで、この残材をチップーシュレッダーという機械で、細かく破碎して処理しております。

これが「砂防林を育てよう」という森林ボランティアをしている状況です。光ヶ丘地区でもこのようなボランティアが行なわれております。

ボランティア活動の人数がどのように変化して行ったかを表すグラフです。平成12年にボランティアが開始されました。その時380人だったのが、翌年、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、万里の松原に親しむ会の活動が始まり、東北公益文科大学も設立されました。そして平成14年に

出羽庄内公益の森整備事業が始まり、平成15年には、1000人を越える活動になり、様々な学校に活動が広がっています。

これは、森林整備、森林環境教育の回数の変化を見たグラフです。平成12年は、たった1回の活動だったのですが、年々増加して活動の輪が広がっているのが、このグラフでも分かります。内訳が色別で表してあります。紫色で示してある小中学校の活動が一番多くなっています。

次に「ボランティアリーダーの養成」についてご説明致します。「海岸林の植生・森林生態系を知ろう」という研修では、午前中に室内で海岸林の生物多様性についての講義を行い、午後、実際に野外に出て植生調査を行いました。

「庄内砂丘歴史探訪」という研修では、庄内砂丘に数多く残る、砂防植林の石碑を訪ね、先人の足跡をたどることで、砂防植林の歴史を勉強しました。

「松くい虫って何だろう？」という研修では、庄内砂丘の海岸林で最も問題となっている松くい虫の生態や防除方法などについて勉強し、また、実際に松の木の中にいるマツノマダラカミキリの幼虫を観察します。

ちなみに今年度の「松くい虫って何だろう？」の研修会は、12月10日土曜日に遊佐町海浜青年の家で行ないますので、興味のある方は、是非ご参加ください。

次に、「学習林の整備、森林環境教育の支援」について、ご説明致します。この事業ではこれまで、6校で学習林の整備を行なってきました。学習林というのは、小学校の近くにある海岸林を森林体験学習や地域活動などに活用するための林です。最初は藪だった林を、森林所有者の了解を得て学習林として設定し、森林組合に委託して整備しました。ねらいは、地域の森林を自分たちの手で守り育てるという意識を高めること、そして、森林に対する愛着を深めることです。整備した学習林では、庄内総合支庁から「地域ふれあい講座」という出前講座で、森林環境教育の支援を行っております。

これは、平成15年に鶴岡市立西郷小学校で学習林作りをした様子です。松くい被害木のチップで歩道を作ったり、丸太で階段を作ったりしました。こういう活動をしている時の子供たちは、とても生き生きとした表情をしています。

学習林は放って置くと、また元の藪に戻ってしまうので、手入れがとても大事です。黒森小学校の活動事例ですが、枝打ちを行ったり、ニセアカシアの萌芽を刈り払っているところです。マツノマダラカミキリの天敵である、キツツキの寝床作りもしました。

酒田市立泉小学校の校外学習の事例です。これは、地元の住民団体の「万里の松原に親しむ会」が独自に行なったものです。日和山の松林銘や、西荒瀬地区の植附場之碑などを見学している様子です。住民団体が主体となった環境教育の支援が行なわれるほど、活動の輪が広がってきたといえます。

今までお話したように、庄内砂丘の海岸林では、多くの関係者が主役となって活動を行なっています。この図で示すとおり、多様な主体がネットワークによって繋がり、地域の財産である庄内砂丘の海岸林を保全しています。それぞれの主体に、ボランティアリーダーが誕生し、様々な活動を進めるようになりつつあります。

最後に課題と対策ですが、多様な主体の協働による保全を進めるためには、「出羽庄内公益の森づくりを考える会」によるネットワークづくりをさらに進める必要があります。

森林ボランティア活動については、地域の森林を地域の力で守るという意識を高めるために、地域との連携を深めることと、森林所有者の理解と協力を得ることが必要です。

そして、住民参加の森づくりを支える人材の養成については、より多くのボランティアリーダーを養成する必要があります。森林環境教育は、次世代を担う青少年に森林を守り育てる心を伝えるものです。学習林活動を持続し、活動を地域に定着させることが必要です。

みんなの森林をみんなで守るという心が海岸林の保全に繋がります。みなさん1人1人が主役なのだ、という事を最後に申し上げて報告を終わります。

(進行：呉)

ありがとうございました。伊與田さんは、酒田市の「万里の松原」がある学区のご出身事で、地域の方が県職員の立場としても、実際に森林整備で頑張っているということで、もっと若い世代の人達や地域の方々にも活動の仲間に入ってもらえるようにメッセージがあれば、お願いします。

(伊與田)

若い人ということで、小中学生や高校生の皆さん、つい先日は東北公益文科大学の学生さんなどにもお話する機会がありました。お話をすると、みなさんが、ああやっぱりクロマツ林は守らなければならないなど、納得はして頂けます。しかし、やはり実際に枝打ちや下刈りの活動に参加し、やってみないと実感として分らないのではと思います。ということで、明日もボランティア活動がありますので、ぜひ参加して実際に体験していただければと思います。

(進行：呉)

今は予算も厳しい状況ですが、この事業は大変素晴らしい事業で、我々の森づくりの基盤となっている事業でもありますので、ぜひ皆様のご理解を頂き、予算の方も維持していただければと思います。どうもありがとうございました。

続きまして、最後になりますが、渡会電気土木株式会社の渡会社長さんから、伐採した木をいかに有効活用するかという事例につきまして、木質ペレットについてご紹介いただきたいと思います。